

おしゃべりコーナー

(目次)

< 今月の歌 >

「[島人ぬ宝](#)」

(竹の台・タイガー)

< ショート・ショート >

「[干瓢](#)」

(春日台・大西 No.10)

< 西神の庭 >

「[オープンガーデン訪問記 \(2\)](#)」

(竹の台・こっこばあば
檜野台・ラベンダー)

< 今月の歌 >

「[島人ぬ宝](#)」(しまんちゅぬたから) 作詞、作曲、歌: BEGIN

https://youtu.be/7iZ4-4EYNnk?si=a4w6vzGys1_cvAVj



この歌は、石垣島出身の3人のバンド BEGIN によって、2002年にリリースされました。

この歌の作成当時、ボーカルの比嘉栄昇が、石垣市立石垣中学校の担任だった同級生に依頼して生徒たちに島への思いを書いてもらい、それを参考にして作詞したものだそうです。

2002年のNHK紅白歌合戦にこの曲で出場、翌2003年には山本健吉文学賞歌詞部門を受賞し、沖縄ソングの代表曲の一つとなっています。因みに、このYouTubeは2006年、嘉手納での「沖縄からうた開きコンサート」でのライブ映像です。

♪ 僕が生まれたこの島の空を
僕はどれくらい知ってるんだろう
輝く星も流れる雲も
名前を聞かれてもわからない
でも誰より誰よりも知っている
悲しい時も嬉しい時も
何度も見上げていたこの空を
教科書に書いてある事だけじゃわからない
大切な物がきっと ここにあるはずさ
それが島人ぬ宝(しまんちゅぬたから)

♪ 僕が生まれたこの島の海を
僕はどれくらい知ってるんだろう
汚れてくサンゴも減って行く魚も
どうしたらいいのかわからない
でも誰より誰よりも知っている
砂にまみれて波にゆられて
少しずつ変わってゆくこの海を
テレビでは映せない ラジオでも流せない
大切な物がきっと ここにあるはずさ
それが島人ぬ宝(しまんちゅぬたから)

♪ 僕が生まれたこの島の唄を
僕はどれくらい知ってるんだろう
トゥバラーマもデンサー節も
言葉の意味さえわからない
でも誰より誰よりも知っている
祝いの夜も祭りの朝も
何処からか聞こえてくるこの唄を
いつの日かこの島を 離れてくその日まで
大切な物をもっと 深く知っていたい
それが島人ぬ宝(しまんちゅぬたから)
それが島人ぬ宝 それが島人ぬ宝

(タイガー)

[目次へ](#)

<ショート・ショート> ちょっとした気づきやつぶやき・・・

「干瓢」

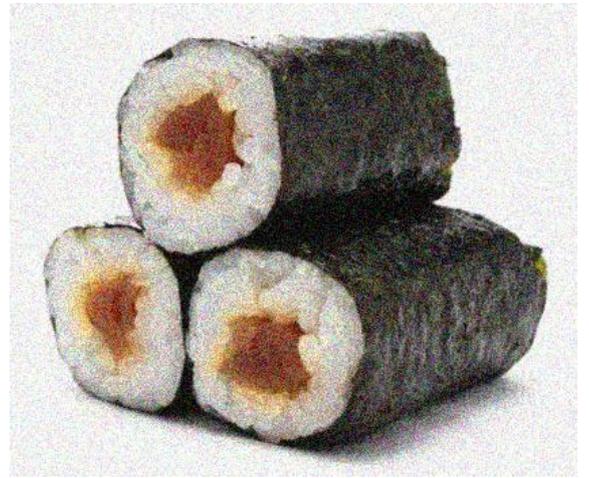
干瓢といえば、
運動会の日に母が作ってくれた
巻き寿司を思い出す。

茨城県の西部にあった
工場に勤務していた頃、
農家の庭先で竹竿に吊られた
紐状のユウガオを見たことがある。

真夏の青空の下で少し水分を含み
陽の光を反射して
目をみはる白さで輝いていた。

煮詰められた干瓢からは
想像もできないが、
ユウガオは夏の夕方一晩だけ
白い花を咲かせ、
夏の陽に干される実の白さは
この世のものと思えないものだった。

一瞬の儂い白さは、
源氏物語に書かれた佳人薄命の
「夕顔」のようであった。



春日台・大西 No.10

[目次へ](#)

< 西神のお庭 >

「オープンガーデン訪問記（２）」

自慢のお庭を公開する「オープンガーデン」が５月１８日に、美賀多台と春日台４軒のお宅で公開されました。

お庭を拝見し、その見事さに感動でした。
先月に引き続き紹介します。



ピンクの旗がオープン
ガーデンの目印です。



お隣とのわずかな隙間も
見事な空間に。



ゴミ箱コーナーとは
思えない、素敵！

（竹の台・こっこばあば
檜野台・ラベンダー）

[目次へ](#)